

作文コンクール 優秀賞

(奈良県市議会議長会長賞)

北方領土と私たち

香芝市立香芝西中学校 小笠原 心那

北方領土問題と聞いても、なんとなく知っているが、詳しいことは知らないという人がほとんどだろう。それが北方領土問題の現実だ。私は北方領土返還に向けて、三つのことが必要だと思う。

まず一つ目は、この問題を多くの人に知ってもらうことだ。最初に書いたように、北方領土問題を詳しく知っている人は少ないと思う。昔、北方領土に住んでいた人は風化していく一方だ。そこで、その人たちから北方領土についての話を聞き、そして語り継いでいくことが一番大切だと思う。戦争を知らない若い人たちがこの問題について知る機会を作り、一人一人が真剣に考えるようにすることはできないだろうか。私たちもこのことを他人事だと思っはいけないと思っている。

二つ目に、あきらめずに粘り強く交渉していくことが大切だと思う。署名を集めたりするなど、小さなことからでも行動することに意味があるのではないだろうか。でも、ただ北方領土を返せというだけではいけないと思う。なぜならば、北方領土は今、ロシアの人々の故郷でもあるからだ。昔、日本がロシアにされたように、北方領土を無理矢理奪って、そこに住む人を追い出すということとは、ロシアの人々に、昔の日本人と同じ思いをさせるということになる。日本とロシアの両方の故郷である北方領土を、どちらの国も納得できるように返してもらうために、何度もあきらめずに話し合いをしなければならないと思う。私は北方領土に両方の国の人々が一緒に住むということもいいのではないかと考えた。いろいろな方向から交渉することはとても大切だ。

そして最後に、北方領土に現在住んでいるロシアの人と交流することが必要であると思う。現地の人と交流することで、北方領土の現状やその人々の思いなどを知ることができると思う。日本は日本で、ロシアはロシアでそれぞれ北方領土についての考え方も違うと思う。直接交流して触れ合ったり話し合ったりすることで、日本とロシアは友好的な関係を築いていけるのではないだろうか。最終的な目標は北方領土を返還してもらうことだが、まずはお互いの立場などをしっかりと考え、友好を深めていくことが問題解決の第一歩だと思う。もっと他国の力なども借りて、積極的に話し合おうとする姿勢がすごく必要だと思う。

現在、日本とロシアの人々の両方の故郷となっている北方領土の問題は、とても複雑なものだ。しかし、長い時間かかっても、両国が納得できる結論を出してほしい。そして、若い人たちがこの問題をきちんと理解して、北方領土は日本の領土だと自信を持って言えるよう未来になってほしいと思う。私自身もこれからを担う一人としてできることがないか探したい。